



～サポート室便り～

サポート室の取り組み・耳寄り情報などをお伝えします

文部科学省が発表した学校基本調査によると、大学女性教員の割合が21.2%となり、過去最高を更新しました。国公私立別で見ると、国立14%、公立26.9%、私立25%の割合となっています。
(8月27日毎日新聞より)

大分大学の現在の女性教員の割合は、16.1%ですが、本学が目指す20%以上となるように、これからもサポートを充実したものにしていきたいと思えます。

平成24年度女性研究者支援の採択者が決定しました。

【秋季学会派遣】 国際学会 3名 国内学会 5名
【第3回研究奨励賞】 研究者部門(最優秀賞 1名 優秀賞 5名)
大学院生部門(最優秀賞 1名 優秀賞 2名)

セミナー開催のお知らせ

『 男女共同参画公開セミナー 』

日 時 : 平成24年10月9日(火) 14:00～16:10

会 場 : 大分オアシスタワーホテル 3階 紅梅の間

参加者 : 大学関係者及び一般(事前申込制 先着100名)

【特別講演】

講師 : 川島 隆太氏 (東北大学加齢医学研究所教授)

演題 : 「脳を知り、脳を育み、脳を鍛える」

～脳科学から見た男女共同参画の意義～



大分大学の教職員の方に登場していただき、女性研究者支援について、ご自身の事、これまでに経験してきたことなどをお話していただくコーナーです。

今回ご登場していただくのは……

医学部 助教 花田 克浩さん

『 子供幸福度第1位の国の子育てって？(その2) 』



日本各地で『いじめ』が問題になっている。そのほとんどは学校で起きている。あるいは、学校での人間関係が関係している。では、オランダではどうか？多種多様な人種が住んでいるロッテルダム市では、「子供の個性」や「集団力学」を原因としたいじめだけでなく、人種、宗教、国籍、習慣の違いなど、様々な原因で「差別」や「いじめ」が発生する。しかし、実際は日本より「いじめ」は少ない。その要因を考察してみる。

オランダは5歳になる誕生月の翌月から小学校に入学する。バラバラに入学するので児童たちは「集団」というより「個人」という意識が高い。この点で「1人を集団でいじめると」といういじめの構図ができにくい。さらに、市内ならどこの学校に通っても良く、転校も自由である。気をつけるべき点は、各学校の教育方針が全く異なることである。自然環境を尊重する教育、ハイテク/エリート教育、運動・特技重視の教育、国際感覚を磨く教育など、教育方針は校長先生の次第と言っていい。児童生徒たちは、自身の興味に応じて転校することもできれば、人間関係を原因として転校もできる。この自由度こそが、適性や個性を伸ばすだけでなく、いじめを受けている児童生徒が容易に避難できる環境を与えている。多種多様な価値観の現代社会、我が国でもこのような自由な選択が取り入れられる必要があるのかもしれない。最後に、多種多様な人種が暮らすロッテルダムでは、小学校の頃から教育の現場で「いじめ」や「差別」に対する指導が日本以上に真剣に取り組まれているということも加筆しておく。